

パラダイス カメたちの楽園 ~カメ調査in三杉川~



佐野のイオンやアウトレットの東側を流れる三杉川。ここにはかつて、「越名沼(こえなぬま)」という広大な沼(東西600m、南北2km)が広がっていた。

越名沼は、コイやフナが捕れるよい漁場であったが、1965年、干拓事業が完成し、コメの増産のために農地が造成された。

三杉川はその時に造られた人工の河川である。捨てられた廃タイヤに洗濯機。一見すると、ただの汚い川だ。

しかし、今、三杉川は密かに「野生の川」へと変貌しつつあるように感じた。人の手の入った河川敷には野生の樹木が繁茂し、

水面を覆い隠すほどだ。そして、今年の夏、生物同好会のカメ調査により、「**この川の主役は、カメたちである**」と確信した。

カメ調査の必需品

は、双眼鏡とカニカゴ。まずは双眼鏡で、水面や川岸にカメがいないかを確認する。カメがいるところだと、普段、地元の人が必ず目撃している。そのため、聞き込みは重要である。「この辺りでカメを見かけませんか？」カメと聞くと、地元の人たちは、けっこう喜んで話してくれるのだ。

三杉川の凄さは、カメの生息数が多いことである。橋の上から川を見ているとたいていカメが泳いでいるか、甲羅干しをしている。カニカゴを仕掛けておくと、次の日、3~5匹くらい入っていることは普通である。クサガメ、ミシシippアカミミガメで、甲長が20センチクラスがざらである。おそらく、かつては沼や湿地であったことがカメの多さと関係しているのだろう。

そして、「これは本当に凄い。」と思ったのは、**スッポンを発見**したときである。スッポンがいる川は、今のところ、栃木県ではここだけである。(ただし、もともここで繁殖していたのではなく、ペットやスッポン料理用に飼っていたものが放された可能性もある。)しかし、いずれにせよ、三杉川がカメたちにとって住みやすい「楽園(パラダイス)」であることは間違いのないだろう。



スッポン(首が長いのが特徴)



カニカゴのカメ(5匹いる!)



カニカゴにはカメ以外の動物が入ることもある(ここではウシガエル)

